

令和4年度第2回 田尻町保幼小中一貫教育検討委員会 議事録

1 開会及び閉会の年月日時及び場所

開 会	令和5年2月8日(水) 午後1時00分
閉 会	令和5年2月8日(水) 午後2時45分
場 所	田尻町教育センター 2階 一般教室1

2 会議に出席した者の職及び氏名

委 員	岩野 清美委員、谷口 綾香委員(欠席)、妹尾 晃典委員、森下 かおり委員、中村 まき子委員、池本 勝利委員、明貝 一平委員、西阪 純也委員、栃木 孝正委員、田津原 淳委員、織田 容子委員
事務局職員	馬野教育長、横上教育次長、米良理事、森下こども課長、伊賀学事課長(欠席)、古家一貫教育推進課長、水野一貫教育推進課主幹、大城一貫教育推進課主幹

3 案件

① 会長あいさつ

〈会 長〉今回で2回目の開催だが、前回に引き続き活発なご意見をお願いしたい。

② 報告事項

〈事務局〉めざす子ども像について、資料1を基に報告

〈会 長〉資料1について、ご質問やご意見があればお願いしたい。

〈委 員〉めざす子ども像は全体として意見を反映しまとめてくれている。気付いた点としては、「自分の力でやり抜く子ども」の具体的な姿にある「豊かな食事」という表現が気になる。また、「人とつながり、自分も相手も大事にできる子ども」にある「時と場に応じた挨拶、相手を思いやる言葉遣いができる」だけが具体的すぎるのではないか。そして、「頼れる、頼られる人間関係をつくることできる」については、主観が大きく関係してくるので、もう少し客観的な表現の方が望ましいのではないか。

〈事務局〉貴重なご意見ありがとうございます。めざす子ども像は最終的には学校長に決定いただくことになるので、参考にさせていただく。

〈会 長〉全体のめざす子ども像が決定されていくかと思うが、それぞれの学校段階に応じためざす子ども像は策定していく予定があるのか。また、今後めざす子ども像を以外にめざす教育像や重点目標をつくっていく予定はあるのかお聞きしたい。

〈事務局〉今後このめざす子ども像をもとに、各発達段階に応じた学校園におけるめざす子ども像をつくっていく予定になっている。また、めざす教育像、教師像、重点目標も策定していく予定である。

③ 議題「学校種」について

〈事務局〉学校種について、資料2を基に説明

〈事務局〉和泉市立南松尾はつが野学園への視察について、資料3を基に報告

〈会長〉資料2・3についてご質問、ご意見あれば

〈委員〉教育課程の特例というのは、3年生で行っている学習内容を2年生で行うことも可能になるということなのか。

〈事務局〉先取り学習を行いすぎると、転入生への対応が難しくなるので、基本的には学習指導要領に乗っ取り進めていくことになる。独自のカリキュラム編成においては、独自教科の設定が現実的な路線と考えている。

〈委員〉一貫教育を進めることで何がよくなるのか、変わるのかがよくわからない。

〈事務局〉これまではそれぞれの学校園所でめざす子ども像や目標を掲げていた。それを一貫した目標として共有することで教育の質の向上が図れる。また教育課程の特例も認められる。

〈会長〉委員の視察経験を聞かせてほしい。

〈委員〉能勢町立能勢ささゆり学園を視察したことがある。小学校・中学校が合築していて、校庭もそれぞれの成長段階別に遊ぶスペースが区切られていたり、フェンスの高さも工夫されたりしてすばらしかった。プールも低学年用と高学年・中学生用で2つ作られていた。特にコミュニティ施設が充実していた点はぜひ参考にしてほしい。

〈会長〉学校種をまたぐことに関して不安を感じたことを聞かせてほしい。

〈委員〉正直わからないことが多い。イメージがしづらい。

〈委員〉ある大学教授のお話によると小中一貫校や義務教育学校はもう古いと言っていた。0歳から15歳までと捉え、0歳児から2歳児、3歳児から小学2年、小学3年から小学5年、小学6年から中学1年、中学2年から中学3年といった区切りで話していた。大変参考になった。メキシコの日本人学校に3年間勤めていたが、児童生徒数290名程度の今でいう義務教育学校だと言える。9年間を連続して系統的に指導していたが、現実的なところでは小学校は小学校文化、中学校は中学校文化を大事にしており、しばしば対立することもあった。小学校視点では中学校の授業方法についてもっと改善の余地があるとなり、中学校視点では小学校の指導の甘さが中学校での指導の困難さを招いているとなっていた。中学校は小学校に学び、小学校は幼稚園に学ぶ必要がある。もちろんその逆向きも然りだ。小中学校の垣根を埋めるためには、義務教育学校が良いと思うが、最初は一貫型小中学校でスタートして義務教育学校に移行するという事も考えられる。

〈委員〉今回の説明では、小中一貫校と義務教育学校が並列になっているが、個人的には義務教育学校の一択だと思っている。住民の意識としては現時点でも一貫教育という認識であり、今後先進的なことをやっていくというインパクトを与えるには義務教育学校になるということを大きく打ち出した方がいい。社会教育的には学校だけでなく、老人ホームやコンビニ、銀行ATMなど複合的施設にしてほしい。

〈委員〉義務教育学校で進めていけばいいのではないかと。現在国全体で義務教育学校が増加傾向にあり、大阪でも初導入から7年が経過していることを考えると、検証結果も出てくと思う。そのあたりの分析も必要だろう。また、一度義務教育学校にしてから小中学校に戻すことは可能な

のか、そのあたりも確認した方がいいだろう。

〈事務局〉義務教育学校から小中学校に戻すことは、制度的に不可能でなくても実体的には厳しいのではないか。

〈委員〉田尻の先生は、若い先生も含めてみんな真面目ですごくがんばってくれている。しかし、せっかく育ってきて6年後には異動しなければならない。義務教育学校になると教職員の異動に関する課題が懸念される。より意欲ある先生に来ていただきたいので、もっと田尻のよさをアピールしていきたい。

〈事務局〉必要とされる先生はどれも同じ考えなので、各市町で囲ってしまい、なかなか来てもらえない。府教委からの配当ではなく、市町村教委同士でのやりとりになるので難しい。

〈委員〉幼児教育は、遊びや環境を通して行う教育で、遊びの中で自然に学んでいる「無自覚な学び」であることがほとんどである。小学校は時間割があり、時間によって「今から〇〇の勉強をします」という「自覚的な学び」だと思う。一人ずつの机があり、物的環境的にも小学校入学は大きな段差である。就学前は、友だちの顔が見えるように輪になって座らせることが多いが、5歳児3学期には就学に向け、担任の方を向いて列になって（小学校の教室のように）座るようにしている。ある程度の距離があっても、担任の話をしっかり聞けるようにしている。段差をなくすことはできないが、今の段階でできる工夫をしている。

〈委員〉泉南支援学校は小学部、中学部、高等部で12年間一貫教育と言える。子どもが違うので、それぞれの発達段階に応じた指導を行うと考えると対立が生まれるのは自然だと思う。本校でも小学部、中学部と中では区切られている。また、子どもたちはそれぞれのステージに上がっていく中で成長していくものだ。過度に一体性を求めるのではなく、それぞれの段階でやるべきことをしっかりやるのが重要なのではないか。

〈委員〉教育の専門ではないので、恐縮ではあるが、現在年功序列ではなくなってきているので、自主的に意見を言えるようになることは大切だと思う。そういう力をどうつけるか、それぞれの発達段階で一貫したものにしていくことが大事だ。

〈委員〉PTAでも一貫教育のイメージを聞かれるが、エリート学習をするといったり高校進学のためにやったりするという認識が多い。

〈事務局〉一貫教育と聞くと、私学の中高一貫校をイメージされる方も多いと思う。そのあたりは正しい情報の発信、理解推進のための広報を行っていきたい。

〈委員〉一貫校にするか義務教育学校にするかは大人の都合で、子どもにとってどうなのかを議論すべき。エンゼルになるときにPTA会長をしていたが、揉めに揉めていた。子どもたちにとっては関係のないところが多かったように思う。義務教育学校にして校歌や制服など残すところは残していけばいい。

〈会長〉田尻町の第一印象として、「大人の営み」と「子どもの学び」が一体的であり、まさに一貫教育を進めていくうえで素晴らしい環境だと感じた。子どもたちの精一杯の成長をどう支えていくかという視点が大切だと思う。以前、小学校低学年の生活科の授業を見学する機会があり、とてもかわいく思いながら参観していたが、同行していた幼児教育専門の人は「5歳児までに生まれてきたことが、うまく引き継がれていない活動になっている」と言っていた。小学校1年生になると、急に小さい子の扱いを受け主体性を阻害しているという話はよく聞く。子ども

たちの精一杯の成長を0歳から15歳までに関わるすべての人でしっかりと受け止めていく必要がある。

4 その他

〈事務局〉

- ・ 本日の委員会の開催にあたってのお礼
- ・ 名称の変更（田尻町保幼小中一貫教育検討委員会→田尻町一貫教育審議会）
- ・ 令和5年度第1回の開催について（次年度の1学期中）

〈会長〉

- ・ 退任のあいさつ

〈馬野教育長〉

- ・ お礼のあいさつ